

雪遊びが楽しい季節がやってきました。雪だるま、スコップを持ってのトンネル作り。大人にとってはやっかいな雪も子どもにとってはうれしくて仕方のない宝の山。工夫をしながら、自分だけの作品を作ります。きらきらと目を輝かせ、遊び姿はカッコいい!!
大人も子供たちに負けずに一緒に雪を楽しみましょう。

平成26年度より支援センター「ぷっこ」の体制が変わります。

現 行	平成26年度より	対 象	申請方法
にこにこ学級	ぷっこクラブ 第1・2・4火曜日実施予定 (日程により2回のみ実施 することあり)	2歳以上	申し込み用紙に必 要事項記入し提出
親子遊びの広場			
0歳児・1歳児 親子遊びの広場	0歳ぷっこ (第2水曜日) 1歳ぷっこ (第3水曜日)	0歳時のみ 1歳時のみ	不 要
マタニティ教室	毎月第3～4木曜日	妊婦及び出産後の母子	不 要
出張子育て 支援センター	毎月第3～4木曜日	(落合・北落合) 奇数月 (金山・下金山) 偶数月	不 要

* 日程につきましては、休日等の関係で、変更になることがあります。詳しい内容は広報や広報お知らせ版などに随時掲載します。

尚、申し込み用紙は3月から保育所、保健福祉課(みなくる)に用意してあります。

* ボランティア募集～子育て支援センターでは26年度ぷっこクラブ開催時に下のお子様の託児をしていただけるボランティアの方を募集しています。

月に2～3回の2時間程度小さな赤ちゃんや子供と触れ合ってみませんか。

※ご不明な点は、子育て支援センターまでお問い合わせください。

保育所の元気な子どもたち

幾賓保育所

今年はいじめの雪遊びで、元気いっぱい遊びまわりました。

まだまだ充分な雪ではなかったのですが、雪の感触を時間いっぱい楽しみました。「早くたくさん雪ふってほしいな」と、お友達との会話がはずんでいました。



金山保育所

恒例のお餅つき会、お父さんとお母さん達の協力で、楽しい一日になりました。

出来たてのお餅を何度もあかわりをして食べていました。子ども達の食欲に「お腹大丈夫」と声をかける姿もあちらこちらに、見られました。



こんにちは
保健師です!
保健福祉課保健指導係
☎52-2211

乳・子宮がん検診を受けましょう!



検診を受診しますか?

町では、毎年4月初旬に乳がん・子宮がん検診を実施しています。2月頃に乳がん・子宮がん検診意向調査を対象の方に送付する予定となっておりますので、検診受診を希望される方は、意向調査にてお申し込み下さい。

「乳がん」ってどんな病気?

乳がんは、女性ホルモンの刺激を受けてできる乳腺(母乳をつくる場所)のがんで、特に40歳代後半にもっとも多く発生しています。乳がんは、女性にできるがんのなかで一番多く、年間5万人が乳がんになっています。

また、がんの部位別の死亡数では、大腸がん・肺がん・胃がんに次ぐ4番目の多さで年間約1万人が乳がんのため亡くなっています。そのためマンモグラフィ(乳腺専用のレントゲン)を使った検診を、40歳以上で2年に1度受けることが勧められています。

乳がんの直接的な原因については、まだはっきりとしたことは分かっていません。

しかし、統計的な調査によって危険因子が次第に明らかになっています。

乳がんが増加している背景には、女性の社会進出に伴う晩婚化などで乳腺がエストロゲンにさらされている時間が長くなったことが原因として考えられています。また、閉経後は、エストロゲンが脂肪細胞で作られるため、閉経後に肥満の女性では乳がんのリスクが高くなるとも言われています。乳がんを早く見つけて治療すれば、より高い確率で、完全に治すことができます。

○乳がんの危険因子

- ①年齢(40歳以上)
- ②未婚の人
- ③高齢出産の人(出産していない人)
- ④初潮が早く、閉経が遅い人
- ⑤肥満の人(閉経後)
- ⑥血縁者に乳がんになった人がいる
- ⑦良性の乳腺疾患になったことがある
- ⑧乳がんになったことがある
- ⑨閉経後のホルモン補充療法、経口避妊薬使用の経験がある
(欧米では危険因子とされているが日本では、はっきりとしていない)

さらに、乳房を温存しながらわずかの切除手術でがんを取り除くことも可能です。

乳がんは不治の病ではありません。乳がん全体で見れば8割以上が治ると考えられています。早期がんなら、完治の可能性もぐっと高くなるので、検診で早期発見を心がけて下さい。

「子宮頸がん」ってどんな病気?

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部表面の細胞にがんができる病気です。日本では年間約15,000人が発症し、約6,000人が死亡しているがんであり女性特有のがんの第2位の発症率となっています。近年では20代や30代の若年層で増加傾向にあります。

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。感染はほとんどが性交渉によりですが、ウイルスに感染すること自体は決して特別なことではなく誰でも感染する可能性があります。感染してもほとんどの場合は自然に排除されますが、ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合があり、ごく一部のケースで数年～数十年間かけて子宮頸がんを発症します。子宮頸がんは、初期に症状がほとんどなく、自覚症状があらわれる頃には、病状が進行していることが少なくありません。長期間かけて発症する病気であり、早期に発見すればがんといってもほぼ治癒します。

検診を受けることが子宮頸がん予防と早期発見への第1歩です。面倒だから恥ずかしいから…とためらわず、20歳を過ぎたら2年に1度継続的に検診を受けましょう。